



会報 2020年 盛夏号



日本フットパス協会設立10周年記念 町田大会特集号



日本フットパス協会設立10周年記念事業
歩こう・ニッポン！ 歩こう・まちだ！

事務局長 神谷 由紀子

主催：日本フットパス協会、日本フットパス協会設立10周年記念事業実行委員会

日本フットパス協会 設立10周年記念
歩こう・ニッポン！
歩こう・まちだ！
～地域の小径&暮らしの道でふれあうフットパス～

記念シンポジウム
2020年 2月8日(土) 事前申込制
時 間 / 14:00～17:00
場 所 / ベストウェスタン レンブラントホテル東京町田
登壇の司 登壇者(町田市長、町田市長夫人、町田市長夫人、町田市長夫人)
内 容 / 基調講演、トークセッション (ほか)
参加費 / 無料

記念レセプション
パーティー
2020年 2月8日(土) 事前申込制
時 間 / 17:30～19:00
場 所 / ベストウェスタン レンブラントホテル東京町田
登壇の司 登壇者(町田市長、町田市長夫人、町田市長夫人、町田市長夫人)
参加費 / 5,000円

ナイトフットパス
「Machida Deep Night」
2020年 2月9日(日) 事前申込制
時 間 / 19:30～21:00
場 所 / 町田駅南20のおすすすめ道
参加費 / 別途自己負担

まちだフットパスウォーク
2020年 2月9日(日) 事前申込制
参加費 / 1,000円
場 所 / 町田駅南20のおすすすめ道
参加費 / 別途自己負担

募集締切：2020年1月15日必着 申込問合せ先：株式会社JTB 相模原支店 TEL：042-701-2153
お申込みは、募集要項を確読の上、FAXもしくは郵送にて 株式会社JTB 相模原支店 〒252-0203 神奈川県相模原市南区相模大野3-13-15 第三カビル3階 FAX：042-701-2141

想定外のコロナとの日々を皆様はいかがお過ごしですか。

みどりのゆびも2月下旬より活動を自粛しており、昨年度の後半は殆ど動けませんでした。その中で、2月8・9日、コロナ自粛のギリギリ間際に、「日本フットパス協会設立10周年町田大会」が盛大に開催されました。

8日のシンポジウム、9日のウォーク、それぞれに全国から150名を超える大勢のお客様がお集まりになり、町田のあちこちのフットパスコースを楽しまれました。

みどりのゆびは実行委員として会の運営にあたり、シンポジウムの企画から、会場の手伝い、フットパスウォーキングのガイドまで、事務局や会員の皆様、大勢の方々にご協力いただきました。みどりのゆびの、皆の気持ちが一つになったイベントでした。

今回の会報は、その様子をご報告します。



シンポジウム全参加者

「日本フットパス協会」と「みどりのゆび」

日本フットパス協会は、2009年2月に、東京都町田市、山形県長井市、山梨県甲州市、北海道黒松内町の4自治体が発起人となって、「フットパス」を全国的に啓発推進する組織として設立されました。みどりのゆびはその推進役を務めました。設立総会が町田で開催され、会長を町田市の石阪市長が引き受けてくださり、事務局は町田市観光コンベンション協会に置かれることになりました。

その後10年を経て、フットパス協会の会員数は64に上り、そのほかに北海道や九州では多くの自治体を巻き込んで独自のフットパスネットワークが立ち上がりました。専修大学の泉瑠偉先生の調査によると、全国で580本（2020年1月当時協力団体のみ）のフットパスコースがあることがわかりました。

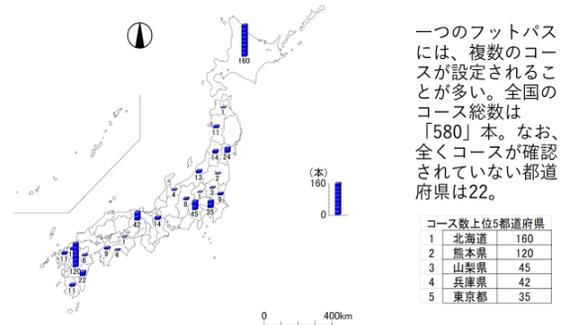
みどりのゆびがフットパスを始めた30年ほど前には、「フットパス」という言葉もまちづくりにもたらす効果も殆ど理解されませんでした。しかし今は協会の会員でない自治体でもフットパスは普通に作られていますし、不動産サイト・スーモの「SUUMO住宅用語大辞典」にも「フットパス」が載っています。今やフットパスは日本のまちづくりを考えるにあたって当たり前の概念となりました。

10年前に設立総会を開催した町田市では10周年記念行事を行いたいという強い希望がありました。そこで、2020年2月8・9日に、シンポジウムとウォークのイベントが開催されることとなったのです。

都道府県別のコース数 (n=133、令和元年12月時点)



日本フットパス協会設立総会



一つのフットパスには、複数のコースが設定されることが多い。全国のコース総数は「580」本。なお、全くコースが確認されていない都道府県は22。

「日本のフットパスの現状調査(令和元年年度調査)」(日本フットパス協会)

現在日本のフットパスコース数は580本

熱い想いの重なったシンポジウム—全国25団体によるトークセッション

今回のシンポジウムは、最初こそなかなか体制が揃わず間に合うか、人が来るか、と心配しましたが、結果として参加して下さった皆さんの熱い想いがほとぼしり重なって一つになった、新しい次の10年を象徴するような素晴らしいシンポジウムとなりました。

最も感動を呼んだのは、シンポジウムとしては新しい形式であるトークセッションでした。普通シンポジウムはせいぜい5~6人のパネラーで議論するのですが、今回は壇上に日本全国北から南まで25の団体が登壇しました。

エコネットワーク（北海道）、長井市、歴史古街道団、甲州市、フットパスネットワーク九州、ニセコ町、江部乙丘、柴田町、由利本荘市、福島県西郷村、民泊観光協会、町田市鶴川インバウンドの会、浦佐、羽島市、兵庫県竹野町、但馬観光協会、奥播磨、愛媛県伊予市高川地域、熊本県芦北町、大分県臼杵市、ヨロン島観光協会、沖縄県浦添市、和歌山県北山村、町田市と、それぞれの

代表が所狭しとステージに並び、ほとぼしるまちづくりへの想いやフットパスへの期待が熱く語られ、会場は大変な熱気で溢れました。

何故25もの団体が登壇することになったかという、最近とみにフットパス協会の会員が増えてきているのです。新しい会員さんたちはパイオニアの私たちも驚くほど新しいビジョンや鋭い感性をもっています。これらの会員さんの意見をなるべく多く聞こうということからトークショーという形になったのです。またフットパスが若い人に受け継がれてきていることも実感できたセッションでした。

最近「地域おこし協力隊」などの若い人たちがフットパスを通して地域に溶け込み、地元の人々と一緒にまちづくりをしていく姿が見られます。その代表として、和歌山県の山奥の北山村に埼玉から職員として就職し、村を若者や知識人の集まる元気な地域へと変貌させている荒井恵理さんに来ていただきました。荒井さんは将来の村長候補とされています。

地元、町田市鶴川からも民泊協会の石川健さんや鶴川インバウンドの会の陶山慎治さんなどの若い地主さんが参加してくださいました。鶴川を活性化しようとして、新しい活動を周囲と連携しな

がら始められています。みどりのゆびとしては、この町田大会を通じて石川さんや陶山さんと繋がることができたのはとても嬉しいことでした。



全国から25団体が参加したトークセッション



歴史古道研究家の宮田先生はガイドも



白熱するフットパスへの想い



鶴川からも陶山さんと石川さんが



和歌山県北山村に就職した荒井さん



みどりのゆびの浅野理事と中村理事も

豪華な顔ぶれのフットパス応援団

町田大会は主催者側や来賓として国や地方自治体からも超豪華な方たちに来ていただくことができました。

シンポジウムは会長の石阪町田市市長のご挨拶から始まりました。石阪会長は10年の間、各地で行われた例会に一度も不参加だったことがありません。その石阪市長が日本フットパス協会の「会長を引き受けたのは、日本の政界の重鎮である石原信雄氏が名誉会長になってくださった会だから」だそうです。柿生に住んでおられる石原氏も小田急沿線などをよくウォーキングされておられ、フットパス協会の設立にも快く応援をしてくださいました。今回も93歳というご高齢をおして町田の会場まで来て、温かなご挨拶をくださいました。

国からは協会の顧問である地域活性化センターの椎川理事長を初め、総務省から地域振興室の畑

山室長が来てくださいました。そして鎌田黒松内町長、内谷長井市長、上田美里町長、原田川西町長、水戸柴田町副町長、長谷川西郷村村長代理、古屋甲州市長代理など、いくつもの自治体の首長が忙しい中を集まってくださり、豪華な式となりました。これらの首長さんたちはフットパス協会の立ち上げの時から、この10年ずっと活動を応援してきてくださった方たちばかりです。



石原信雄元副官房長官のご挨拶



総務省畑山地域振興室長のご挨拶



椎川地域活性化センター理事長と石阪市長



右から鎌田黒松内町長、内谷長井市長、上田美里町長、水戸柴田町副町長、原田川西町長

海外からも、フットパス協会と親しくしているイギリスのランブラーズ協会の会長でありWaW (Walkers are Welcome)の顧問であるケイト・アッシュブルグさんからビデオレターが届き、披露されました。ケイトさんはイギリスのウォーキング・保全活動の第一人者です。

基調講演は首都大学東京の岡村裕教授でした。8日はちょうど大学入試の時期にあたり知り合いの教授陣にご都合悪く、苦心の末町田市がお願いした先生でした。先生は茅ヶ崎でフットパスを作られています。初めて拝聴する講演でしたが、フレッシュな視点からのしっかりした内容でとても面白く、聞き入ってしまいました。



町田市主催者側幹部-町田市、市議会、観光まちづくり課、観光協会、商工会議所



イギリスのケイトさんからのご挨拶



首都大学東京岡村教授

コースづくりから当日まで みどりのゆびによるサポート

もう一つ今回のシンポジウムで特筆すべきは、時間も人手もない中を成功裏に終えることができたのはみどりのゆびの多くの会員に企画段階から当日までサポートしていただいたことです。フットパスコースの選定には、宮田先生を初め、田邊、横山、桑原、吉森の各会員に最初から関わっていただきました。

このほかに永島理事、井上、門石、川北、佐藤（英）、佐藤（弓）、鈴木（由）、西谷、新納、村田、秦、飛田、鈴木（郁）他、多くの会員にコースの下見、会場サポート、ガイド、おもてなしなどあちこちの場面で手伝っていただきました。皆で盛り上げ、皆で楽しんだ町田大会でした。



みどりのゆびの会員の皆さま



コース作りの要、田邊理事



宮田先生と歴史古街道団



美里、白杵、浦添、鶴川、北山村からも



フットパス協会幹部と桑原さん(左端)



レセプションは大盛会



全国からのフットパスの仲間

まちだフットパスウォーク 「皆の好きな都会・里山ミックスのまち：町田」

町田での10周年ということで、9日のフットパスウォークも、新しい問題提起を行うことにしました。小野路など町田の里山フットパスは有名になりましたが、今回は里山と町田の中心街を繋ぐコースを提案してみることにしました。

町田の魅力は、里山と都会が同居していることだと言われています。この「里山と都会を併せ持つ」ということは町田ばかりでなく、全国を回って来て若い人や移住者に人気の地域はこの条件下にあることが多いことがわかりました。特にコロナ以後、この条件は人気になっています。

しかし今、その町田の「里山都会同居」のディープな魅力を形成している街中の老舗商店街が消えようとしています。これを失ったら今の味わい深い町田はなくなってしまいます。一方、町田愛にあふれたキープウィルのような若い起業家グループや鶴川インバウンドの会のような地域のグループも育っており、今町田全体で里山と街中を繋ごうというコンセンサスができつつあります。

このコンセプトに従って今回は5つのコースを選びました。また「ナイトフットパス」でも日本フットパス協会専任理事の尾留川さんが選抜した街中の特選コースを楽しんでいただきました。5コースの詳細はそれぞれの担当者の方たちに報告をしていただきますが、やはり初めての試みだったので、里山フットパスをイメージしてきた方にはまだ思いが十分届かなかった部分もあったかもしれませんが、ただ町田のフットパスの新しい展開を示す第一歩とはなりました。

このコース設定を通して、お茶のひじかた園、活版印刷の新星舎印刷所、乾物の河原本店などの貴重な老舗、そして武相庵やstriなどの町田に未来をもたらす若いビジネスグループと知り合うことができました。

みどりのゆびも古い町田、自然のままの町田の保全を基調としながら、新しい可能性を目指して挑戦していきたいと思います。
(神谷 由紀子 写真：松美 里瑛子)

日本フットパス協会 設立10周年記念
まちだフットパスウォーク
テーマ「皆の好きな都会・里山ミックスのまち：町田」
2020年2月9日 参加人員：各コース25名
参加費：1,000円 (お茶代・資料代・保険料)・昼食は別途各自負担 持ち物：水筒、雨具、防寒具

- A 町田駅周辺の商店街** (難易度：★☆☆) 町田駅周辺の商店街・老舗と歴史の道 (鎌倉街道・山崎の道)
- B 鶴川** (難易度：★☆☆) 鶴川の名家・今も残る里山の中の古民家回廊
- C 薬師池** (難易度：★☆☆) 東京都指定名勝・薬師池 七瀬川の里山めぐり
- D 三輪** (難易度：★☆☆) 三輪・白洲正子の愛した散歩道
- E 小野路** (難易度：★☆☆) 里山の里山10選に唯一 東から選ばれた里山・小野路

※コースや距離は、天候やその他状況により予告なく変更する場合がございます。ご了承ください。

まちだフットパスウォーク5コース



都会里山ミックスのまちだ



古いものを残そう



老舗は町田のディープな魅力

A：町田商店街・老舗と歴史の道 (鎌倉街道&絹の道)

(町田駅周辺の商店街コース)

講師：歴史古道研究家 宮田 太郎
みどりのゆび 神谷 由紀子

町田ってどんなところ？ 市の顔である町田駅周辺には、近代的な大型店舗が立ち並び、大変な賑わいを見せています。その中には何十年も前から続いている個性的な老舗も見られ、商業都市としての新旧を感じる商店街は、遠く戦国時代に開かれた原町田宿に始まっています。また、郊外には多摩丘陵の四季折々の豊かな自然、昔ながらの里山風景と古道などがあり、自然遺産・文化遺産を巡る楽しみもあります。

この新旧、都会と田舎の魅力がバランスよく融合した町田市の魅力を探ろうと、「町田駅周辺の商店街コース」は歴史古道研究家の宮田太郎さんのご案内です。「鎌倉古街道」や幕末の「絹の道」と、その発展がもたらした駅周辺の商店街や賑わいを探訪しました。

スタートは小田急町田駅東口の「カリヨン広場」から。ここには町田の商業の発展に貢献した「絹の道」の碑があります。1859年に横浜港が開港すると、多摩地域の生糸の集積地であった八王子から横浜への運搬ルートが「絹の道」「幕末のシルクロード」と呼ばれ、町田はその重要な中継地となりました。

ここから小田急線第一踏切を越えると鎌倉街道

“秩父山の道”を北西方向へ進み、専門学校なども立つ住宅街、「馬頭観音」を経て「町田シバヒロ(芝生広場)」で休憩。“馬”といえば、その昔生糸を運んだ「絹の道」は荷馬車が主役で、創業130年余を誇る馬肉専門店「柿島屋」は歴史の名残でもあります。ここから府中方面を背にして鎌倉街道“上の道”に入り、小田急線第二踏切を越えると中世・原町田宿成立の起点(二つの鎌倉街道のY字合流点)に。今では「サルビア」の愛称で親しまれる民間交番が立ち、裏手には小さな池「まちだの泉」があります。

原町田大通りを渡ると、町田有数の賑わいを見せる原町田中央通りには「河原本店」(明治28年創業)、「枳屋商店」、時代に合わせた製菓材料でも知られる「富澤商店」など老舗乾物店が軒を並べます。河原本店では店主ご夫妻に昆布の種類や産地の興味深い話を聞きながら、料理好きは品選に夢中でした。

それにしても、なぜこの街道には乾物店が多いのか？ 絹の道を通して横浜で生糸を荷下ろしした帰りに、保存しやすい海産物や肥料、舶来品などを仕入れて戻り、商うようになったのです。また、物資だけでなく外国の思想や文化をも伝える中継点となりました。横浜開港によって来日した英国人写真家F. ベアトが撮影した幕末の原町田中央通り4丁目付近の写真も残っています。

さらに進むと、商店街に分け入るように境内を構える「浄運寺」には、「原町田七福神」のひとつ「毘沙門天」がぼつねんと立ち、目をひきます。



往時の資料と比較して地形を説明する
宮田講師



道路が合流した三角の地形に合わせて
舟型のパブが！



乾物の老舗「河原本店」のご当主から
興味深い説明をいただく



二つの鎌倉街道のY字合流点には民間
交番が

市内に点在するあとの「福祿寿」や「布袋尊」などを巡って、約2kmの開運祈願も街歩きの楽しみを膨らませます。

しばらくして、先に行く講師の宮田さんの声に注目すると、「富澤商店」近くの道路に珍しい“街道の鍵の手”を発見。宿場町などに残された往時のままの曲がり角で、街道ウォーカーの“萌えポイント”になっている珍しい地形なのだとか。商店街には和菓子の「中野屋」、自家製焼豚が人気の「守屋精肉店」など老舗店に加えて、数多くの古着屋が集まり、“古着の聖地”と言われる町田の顔があることも知られています。古さを新鮮な楽しみに変える感覚が根付いているのです。

さてここあたりでランチを、ということで、総勢50名余りのメンバーは、いくつかのグループに分かれてランチハンティングです。各地の名産品ショップのある「ぼっほ町田」前の広場では、早くもカフェに陣取るグループもいて、私たちはすぐ先の「仲見世商店街」へ。

関東大震災後の古物市場から、戦後に「国際

マーケット」として発展した商店街で、長さ約100m、道幅2mほどのアーケード街の両側には新旧様々な飲食店や商店が立ち並び、さながら東南アジアの市場の雰囲気です。その中程にあるタイ料理の「旅人食堂 町田屋台店」がお目当て。この商店街の雑多でパワフルな楽しさを体現しているような現地感覚で、カオマンガイや生春巻き、もちろんトムヤムクンも本場の味と評判です。

午後からは、これまで午前中に歩いた鎌倉街道上ノ道（シバヒロ付近から小田急線第二踏切を経て、老舗が軒を並べる原町田中央通りを下る）が、さらに延びる往時の推定ルートを探索することになります。

その前に、ちょっと欲張って「国際版画美術館」方面へ抜ける公民館通りを歩いて、レンガの外装が美しい「町田市民文学館」を見学。今では希少な活版印刷を手掛ける「新星舎印刷所」に立ち寄り、ここならではの貴重なお話を伺うにつけ、町田にしっかり根付いている文化の気風を感じたことでした。



赤い椿が満開の「浄運寺」



「旅人食堂 町田屋台店」は現地感覚満点



仲見世商店街は“西のアメ横”ともいわれる



「まちの駅 ぼっほ町田」では蚤の市が開かれていた



看板も楽しい「守屋精肉店」



「町田市民文学館」では三島由紀夫展が開催中



「新星舎印刷所」を仕切る名取社長に話を伺う

原町田中央通りが町田街道と出合う地点近くにJR横浜線の高架橋があります。ここ辺りが問題の「鎌倉街道上ノ道」の推定ルートにつながるのでしょうか。

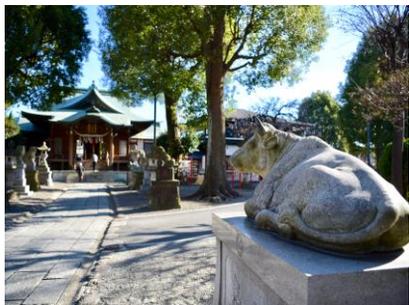
周囲を見回すと、目前に「町田天満宮」が。まずは学問の神様・菅原道真公を祀る神社にお参りしてから。おりからの白い梅の花が香って、境内で毎月1日に開かれる「がらくた骨董市」の賑わいが蘇ります。ここでも七福神の「恵比寿神」が一行を迎えてくれました。

先ほどの高架橋にもどって眺める町田の中心街。

そこに見えたのは、ホテルや高層商業ビルが立ち並び、歩いて来た活気あふれる新旧の商店がその足元を縫う都会の顔でした。往時の鎌倉街道上の道が町田を経て向かう八王子方面はどんな時代の変化を見せたのでしょうか。

そろそろお茶の時間です。仲見世商店街近くの老舗「ひじかた園」二階の茶房では、店主ご夫妻に珍しいマテ茶のおもてなしをいただき、人出がいっそう増えた午後の商店街を後にしました。

(横山 禎子 写真：松美 里瑛子)



「町田天満宮」には立派な牛の像が守り神のごとくに



太宰府と同様に白梅が香る



JR横浜線の高架橋上から古道の推定ルートに思いを馳せる



「ひじかた園」の茶房でお茶のおもてなし。後方は当主ご夫妻



高架橋から「鎌倉街道上の道」の推定ルートに想いを



「シバヒロ」で全員集合写真

B：鶴川の名家・今も残る里山の中の古民家回廊

(鶴川コース)

講師：鶴川インバウンドを考える会
陶山 慎治

Bグループは町田から小田急線で2つ目の鶴川駅集合。地元育ちで老人介護施設等の経営をしている陶山さんの案内。

駅から芝溝街道(津久井道)に出て、途中からその旧道に入る。「妙行寺」が左手に見える。新道を造るため参道が短くなり、入口が超急な階段になってしまっている。

鈴木工務店。代々受け継いでいる築150年の茅葺古民家がある。「可喜庵」という。茶室風な趣のある小ぶりの家だ。時々催し場に使っているとか。

新道に戻って妙行寺脇の坂道を上る。庭の紅白の梅が春を告げている。本堂の蓮の壁画が可愛らしい。南側の真光寺川の谷の向うに三輪の小山の眺望が美しい。裏山を登り切ると西に富士山のでっぺんが白く見える。緑泥片岩の中世の石塔片や五輪塔が集められている場所がある。鎌倉早ノ道に近く義経に関する伝説も数多く残っている。さらに山道に入る。下からは電車の音が聞こえるのだが、この散歩道はとても心地良い。「能ヶ谷空と緑の森公園」さくら広場に出る。去年東京を直撃した台風で、大人3人抱えもある桜が倒れ、切株が痛々しい。

介護施設の悠々園から新興住宅地や家庭菜園の間の道を通して「能ヶ谷神社」へ。

鶴川第2小の前を通過して築153年の「みんなの古民家」前に入る。最近、茅葺の屋根を葺き替えて、小屋根と屋根中央の金属板の意匠がモダンな印象を与えている。当主・石川さんと息子さんが民泊事業を始めて“刀剣女子”の聖地になっているという。

白洲次郎・正子の旧邸宅である茅葺の「武相荘」。引っ越し時の昭和17年、近くには7軒の農家しかなかったという。和風の農家を洋風に、とっても優雅に素敵に暮らしていた様子がうかがわれる。ここで、武相荘監修のお弁当の昼食。

「香山園(かごやまえん)」に入る。旧神蔵家の邸宅。明治期より神蔵中風灸治所として、月1回全国から患者が集まったという。現在の建物は「瑞香閣」といい、明治39年鈴木工務店が建てた。平屋純和風の書院造り。136坪。広い池泉回遊式庭園があり、奥に横穴古墳群や小円墳もある。私設美術館だったが最近市に移管されたいらしい。駅に戻って終了。

近頃「サステナビリティ」という言葉を目にする。「持続可能性」と訳されるが、地球規模の資源の枯渇が問題視され、その反省から使い捨てるのライルスタイルからの変換の概念である。今日の4軒の古民家はまさにこの精神の具現である。町田の地に皆が利用できる形で残されたのは誇らしい。うららかな良い一日だった。

(NK 写真：小川峰文ほか)



可喜庵



妙行寺 本堂



能ヶ谷神社 社殿



武相荘



香山園 瑞香殿



香山園 池泉回遊式庭園

C：東京都指定名勝・薬師池／七国山の里山めぐり

(薬師池コース)

講師：NPOみどりのゆび 田邊 博仁

七国山は128メートルと低い山だが、町田市のほぼ中央に位置し、多摩丘陵南部の丘陵地帯を形成している。高度成長期の著しい都市化の波に対し、ここ七国山地区は、東京都第一号の風致地区(1961年)、緑地保全地区(1965年)に指定され、雑木林、畑、谷戸の田んぼが残されて、里山の雰囲気そのままの町田の財産である。

冬のこの時期は雑木林のコナラやクヌギが葉を落とし、緩やかな丘陵地形が現れ、畑と農道の小径からは秩父や丹沢の山並みと富士、七国山からはスカイツリーまでも見渡せる。

薬師池公園の北駐車場からスタート(10:00)。地元の鎮守・野津田神社を参拝し、神社脇の長閑な畑地を右手に野津田公園の緑と華厳院を見ながら気持ちよく歩く。天気も良く、丹沢の山並みと富士山がくっきりと現れた。町田ぼたん園前からは秩父の山並みが見え、道の横の畑の窪地は平安時代の古代東海道ルートと言われている。

七国山ファーマーズセンターで小休止後、「ファーム七国山」の横のちょっとワイルドな小径を進み、鐘楼を経て野津田薬師堂へ向かう。

野津田薬師堂は約1,300年前の行基・開基とされ、町田市最古の平安時代の木造佛(市文化財)を有

する。参道の大銀杏も見ごたえがある。参道の階段を降り薬師池公園へ出る。

薬師池公園は北条氏照により作られた溜め池(1590年)を中心に、鎌倉街道沿いの細長い暖沢谷戸を利用した谷戸田であった。田んぼは菖蒲田と大賀ハス田へ、畑地は梅林へ。周辺の雑木林とともに武蔵野の面影をよく残した里山公園(1976年)として生まれ変わった。「新東京百景」、「東京都指定名勝」、「日本の歴史公園100選」の3つの指定を受け、町田市を代表する公園である。

昼食を農家料理「高宮」で食べ、午後にスタート。4月にオープン予定のウェルカムゲートの工事風景を見て七国山(128m)へ向かう。

町田市の史跡となっている鎌倉井戸では、「新田義貞が馬に水を飲ませるために掘らせた」との伝説に対して参加者のみなさまから活発なご意見があった。鎌倉井戸からは鎌倉街道上ノ道を下る。深い掘割状の古道として、山林は緑地保全地域で「NPO 七国山を考える会」のみなさまが管理されている。その広場小径を歩き、カフェ・ガーデン「風見鶏」の道に出た。

さらに、町田ぼたん園に向かい、ここで小休止と庭園内を散策。ここは、明治時代の自由民権運動の指導者であった石阪昌孝の屋敷跡であるとの説明板を見る。ぼたん園からの道を下り、薬師が丘団地へ戻るとほっとするくらい暖かくなる。暖沢谷戸の名前の通りである。薬師池公園北駐車場へ戻り解散した(15:00)。

(田邊 博仁 写真：井上 メイ子)



富士の見える畑と農道



秩父の山並みと平安の東海道



野津田薬師堂への小径



町田最古の野津田薬師堂を説明



暖沢谷戸の里山・薬師池公園



薬師池公園



鎌倉井戸



鎌倉井戸から鎌倉街道上ノ道へ



鎌倉街道、掘割状の道跡

D：三輪・白洲正子の愛した散歩道

(三輪コース)

講師：NPOみどりのゆび 桑原 秀夫

路線バスに揺られて12～13分、妙福寺前バス停で下車、3分ほど歩くと山谷戸入口に着く。賑わっていた鶴川駅から、わずか15分ほどで忽然と目の前に現われてきた山深さと静寂さを感じる三輪町の森の里山、やどり木の目立つ樹木などの風景に、参加者の皆さんからは驚きの声が聞かれた。

尾根道に登る入口となる谷あいの柚ヶ谷戸では、腐りかけた作業小屋の修復に汗を流していたボランティア団体の人に出会う。市から委託されて急斜面の薪炭林、竹林の伐採等整備や子供たちのためのカブト虫小屋づくりなどのお話を聞くことができ、鬱蒼とした山道を登り切ると都県境の尾根に出る。

そこには都史跡の玉田横穴墓群が。鶴見川沿いに市が尾、早野、麻生あたりからここ三輪、能ヶ谷、大蔵にかけて、南武蔵横穴墓墳群が形成され、4世紀頃からの遠く奈良からの氏族、豪族によ

て開かれた集落や文化に想いを馳せる説明をさせていただいた。

コナラ、クヌギなどの落葉を踏みながら三輪の森ビジターセンターに向かう都県境の尾根道、町田市側の丘陵部から谷戸にかけては、環境保護活動家、C・W・ニコル氏にも推奨頂き、環境省から「生物多様性保全上重要な里地里山地区」に指定された自然豊かなエリアを案内する。

ビジターセンターで休憩後、日本最古ともいわれる大神神社から9世紀末、布教の際に立ち寄って住み着いた人々によって形作られたとされる三輪、その歴史と史跡を想起させる、白洲正子も愛した妙福寺、椋山神社、白坂横穴墓群、沢山城址、そして高蔵寺へ。やや盛り沢山のコースにも、皆さん元気にお付き合いいただいた。

いよいよ鶴見川沿いから真光寺川沿いにコースを変えて旧白洲邸「武相荘」を目指す。途中「みんなの古民家」石川邸でお話を聞き、そして特別な弁当を用意して頂いた武相荘には、13時頃に着くことができた。冬の寒さも和らいだ絶好の日にも感謝。

(桑原 秀夫)



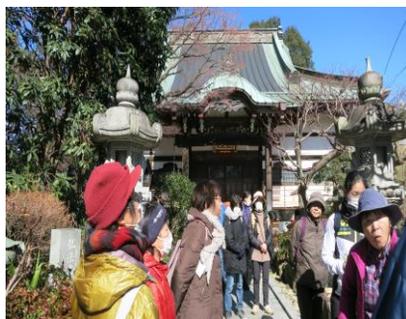
柚ヶ谷戸から都県境尾根に向かう里山道



尾根道で出合った萌芽更新を繰り返す山桜



古の大神神社を想わせた椋山神社鳥居前



高蔵寺本堂を前にして



武相荘庭園で。三輪コースをご一緒したお仲間

E：日本の里山100選に唯一 東京から選ばれた里山・小野路

(小野路コース)

講師：NPOみどりのゆび 吉森 実

小野路コースはみどりのゆび吉森実さんの案内で歩きました。参加者は日本フットパス協会長の石阪町田市長はじめ38名でした。小野神社前に集合し、吉森さんの挨拶の後小野神社の説明を受け、順番に参拝しました。

万松寺の庭を鑑賞し、台の旧家・田極家を見学。庭の大きな椎の木、野鳥などの説明を当主から聞

きました。それにしても市長が野鳥に詳しいことにはびっくりしました。

小町井戸で小野小町が目の治療をした話を聞いた後、小野城址を見学して「奈良ばい谷戸」の名前の由来を聞き、その先に行くと富士山が見られました。

六地蔵から地元農家の小林家に寄り交流。お昼を「小野路宿里山交流館」でいただきました。

午後から小島資料館で新撰組の話、宿の当時の様子を館長から説明をいただきました。

「関谷の切通し」で鎌倉古道の説明を受け、みどりのゆびの管理地の説明を聞き別所バス停へ。
(佐藤 英彦)



朝の挨拶



小野神社



田極家の椎の木



小野城址



六地蔵



奈良ばい谷戸からの富士山

写真：小野路コース 日本フットパス協会設立10周年記念事業 実行委員会



関屋の切通し



小林家 小林 文重さん



六地蔵



奈良ばい谷戸



ウォークの様子①



ウォークの様子②

山田先生による「大和泉の森」観察会

講師：日本植物学会副会長 山田 隆彦

コロナの自粛期間は、悪いことばかりではなかったかもしれません。家の周りを散歩したり、今まで気づかなかった雑草にきれいな花を見つけたり、名前が知りたくなったりしませんでしたか？

そこで、ネットで連絡できる有志で、“スマレ博士”こと山田隆彦先生に「大和泉の森」の自然観察会に連れて行っていただきました。もちろんソーシャルディスタンスは心がけて。井上、鈴木、宇佐見、佐藤、横山、神谷の6名が参加しました。

大和に、しかも小田急線大和の駅近に大きな森があるのは驚きでした。泉の森は、相模湾に注ぐ引地川の源である大和水源地を中心に広がる、大和市の自然の核となっている公園。樹林地と水辺空間が特色ある生態系を形づくり、約900種の植物が年間を通じて約50種の野鳥をはじめ、生き物たちと生息しやすい環境を育んでいます。

この水源を守るために保全されたクヌギ、コナラなどの雑木林、また、相模野台地の昔の景観を今に残す県指定天然記念物「しらかし林」やスギ、ヒノキの針葉樹林の林床には、山野草などの植物が季節を謳歌しています。木漏れ日を受けて咲く自生のキツリフネ、ウバユリ、ヤブミョウガの群生がとりわけ印象的でした。

山野草園では朱赤のフシグロセンノウ、キツネノカミソリを見つけて大騒ぎ、濃厚な香りの向こうには華麗なヤマユリが。またオニユリやタマアジサイなど、夏の花々が暑さを一瞬忘れさせてくれるひと時です。

泉の森には自然観察センターやキャンプ場など、さまざまな施設があります。中でも湿生植物園をまたぐように架かった「緑のかけ橋」からは、約42haという広大な園内が一望のもとに。秋口には真っ赤なヒガンバナが群生するという。樹林帯と水辺空間も一体にして、どんな景観を展開するのか、今から楽しみです。

(横山 禎子)



集合写真だからマスクは外そうか。いえ外さない



山田先生は「3密対策」にマイクの配慮



水車小屋が水辺の景観に貢献



「しらかしの池」にはカワセミの姿も



ヤブミョウガの群生が林床を照らす



ツボミが球のようだからタマアジサイ



強い日射しを跳ね返すオニユリ



遠くからでも香るヤマユリ



キツネノカミソリの名の由来は？



キツリフネの自生が広がる



ウバユリの群生は幻想的



「緑のかけ橋」を背にミンハギ

町田薬師池四季彩の杜～薬師池公園西園（ウェルカムゲート）のご紹介

2017年着工、総工事費14億5千万円、東京ドーム2個分の広さの西園が今年の4月にオープン。新型コロナウイルス感染拡大の影響で閉館していた屋内施設は6月よりオープンした。

まず、目に入るのは緑の樹木に囲まれた黒い屋内施設と英語のインフォメーション、そして、樹木の中をゆっくりと登っていく遊歩道、気持ちのよい小径である。

インフォメーションセンターを訪ねる。このエリアの強みは「緑・四季・里山・散歩」「歴史・文化」「地元で楽しむ」と、弱みは「スポーツ」「イベント」「日常を楽しむ」と分析し、「やくしの時間」の体感と暮らしの彩りをコンセプトにブランディング計画されたと紹介。

目玉の直売所には、新鮮な朝採れ町田農産物、町田市各種名産品、例えば、成瀬ギョーザや北島牧場の乳製品など、

沢山並んでいる。ほかに、ライブラリー・ラウンジ（休憩所）、ラボ・体験工房もある。

遊歩道を、さらに、上へ登ると芝生広場・展望広場が開けてくる。ここでは、簡易テントの設置が許され、グランピング（手ぶらでBBQ）が楽しめるエリアである。

さらに、里山風景を残した奥の農園エリアへ進む。この畑や果樹園では野菜作りや摘み採り体験などができる。

カフェ・レストラン（44APARTMENT薬師池店）にて一休み。「薬師ソフトクリーム」と「薬師バーガー」をいただく。「薬師ソフトクリーム」は、薬師池店限定。北島牧場の町田産牛乳を使用し、今やウェルカムゲートの看板名物として、小さな子どもからお年寄りまで楽しめる、公園一番の人気商品のようである。

（田邊 博仁）



高さの異なる樹木が混植され清々しい。今は、苗木だが、将来は美しい雑木林の中のゆるやかな小径を歩くイメージだ



直売所には朝採れの町田産野菜、町田名産コーナーには、成瀬ギョーザや北島牧場の乳製品など、そして、子どもたちのシャボン玉など



芝生に白いベンチのアウトシアター、手ぶらでBBQが楽しめるグランピングエリア、展望広場では簡易テントの設営もできる



奥の果樹園と農園エリアでは、今までの里山風景を活かし、果実の摘み採りや野菜の収穫が体験できる



緑の見える大間口のカフェ・レストランにて、人気の「薬師ソフトクリーム」と「薬師バーガー」を食べる

NPO法人「みどりのゆび」2020年9～12月フットパス・スケジュール

持ち物：弁当 水筒 雨具 参加費：会員1000円 非会員1500円 (イベントによって変更あり)

コロナの時期で遠出は自粛されております。この機会に、みどりのゆびでは9月から当面の間、自分達のマップを再度歩いて、新しい発見や改訂すべき点を掘り出していきたいと思っております。

最初に改訂が予想される「多摩丘陵フットパス1」の6コースから始めたいと思っております。皆さんと一緒に歩いた結果を改訂版として活かしていきたいと思っております。

●申し込んでも事務局から何も連絡がない場合には、再度お電話などご連絡ください。

メール：info-m@midorinoyubi-footpath.jp 電話：042-734-5678 FAX：042-734-8954 携帯：080-5405-3904 (神谷携帯)

<p>9月20日(日)</p> <p>【集合】 「町田バスセンター」に9時40分</p> <p>【昼食】 要弁当</p>	<p>『多摩丘陵フットパスを歩く』1 小山田</p> <p>【講師：NPOみどりのゆび】</p> <p>【内容】第一回は「小山田」です。 東京都の小山田緑地があるエリアですが、公的な保全地と民地とゴルフ場が混在していて、吊り橋や池など起伏にとんだ地形と豊かな生態、そして古くからの生活を見ることのできる面白いコースです。</p> <p>* 「町田バスセンター」(14番乗り場) 多摩丘陵病院行(町31) 9:50発、「扇橋」10:15着</p>
<p>10月4日(日)</p> <p>【集合】 「小野路」バス停に10時20分</p> <p>【昼食】 要弁当</p>	<p>『多摩丘陵フットパスを歩く』2 小野路城</p> <p>【講師：NPOみどりのゆび】</p> <p>【内容】2回目は「小野路城」です。 馴染みの深い地域です。集合は「小野神社」バス停ではなく、2つ先の「小野路」バス停ですのお間違いなく。</p> <p>* 「鶴川駅」(5番乗り場) 小野路経由多摩センター行(鶴32) 9:55発、「小野路」10:10着 * 「多摩センター駅」(10番乗り場) 小野路経由鶴川駅行(鶴32) 9:50発、「小野路」10:00着</p>
<p>10月25日(日)</p> <p>【集合】 「別所」バス停に10時00分</p> <p>【昼食】 小野路宿里山交流館</p>	<p>『多摩丘陵フットパスを歩く』3 小野路宿</p> <p>【講師：NPOみどりのゆび】</p> <p>【内容】3回目は「小野路宿」です。 みどりのゆびのホームグラウンドです。お昼は小野路宿里山交流館で。時間が余れば「まちだフットパスガイドマップ1」の「7.下堤から小野路」のコースを足してもいいと思っております。ご相談で。</p> <p>* 「鶴川駅」(5番乗り場) 豊ヶ丘四丁目経由多摩センター駅行き(多摩04) 9:32発、「別所」9:44着 * 「多摩センター駅」(8番乗り場) 豊ヶ丘四丁目経由鶴川駅行き(多摩04) 9:33発、「別所」9:50着</p>
<p>11月8日(日)</p> <p>【集合】 小田急線鶴川駅改札口前に9時40分</p> <p>【昼食】 要弁当</p>	<p>『多摩丘陵フットパスを歩く』4 真光寺</p> <p>【講師：NPOみどりのゆび】</p> <p>【内容】4回目は「真光寺」です。 ここもあちこち変遷があったエリアで、古い鶴川が見られるところです。鎌倉軍事道も通っていましたが。要弁当。別所にそばやなどはありますが。</p> <p>* 「鶴川駅」(1番乗り場) 若葉台駅行(鶴21.22) 9:50発、「入谷戸」10:04着</p>
<p>11月29日(日)</p> <p>【集合】 小田急線鶴川駅改札口前に9時40分</p> <p>【昼食】 要弁当</p>	<p>『多摩丘陵フットパスを歩く』5 黒川</p> <p>【講師：NPOみどりのゆび】</p> <p>【内容】5回目は「黒川」です。 古いままで色々残っていたエリアでしたが、はるひ野の開発で影響を受けました。したがってここも大分変わりました。セレスモス(農協)の近くの鶴川街道沿いには食事できるところがいくつかありますが、弁当はあったほうがいいのかも。</p> <p>* 「鶴川駅」(1番乗り場) 若葉台行き(鶴21.22) 9:50発、「黒川」10:08着</p>
<p>12月13日(日)</p> <p>【集合】 小田急線鶴川駅改札口前に9時40分</p> <p>【昼食】 四季の家</p>	<p>『多摩丘陵フットパスを歩く』6 三輪</p> <p>【講師：NPOみどりのゆび】</p> <p>【内容】6回目は「三輪」です。 ここには寺家ふるさと村に至る道など、いい道があります。また古墳やお城、たくさんのお寺など多様な景観で、独特な趣があります。白洲正子も好きだった地域です。寺家ふるさと村で美味しい食事があります。</p> <p>* 「鶴川駅」(4番乗り場) フェリシアこども短期大学行(鶴01) 9:50発、「三輪」9:59着</p>

NPO法人「みどりのゆび」2020年9～12月CSAスケジュール

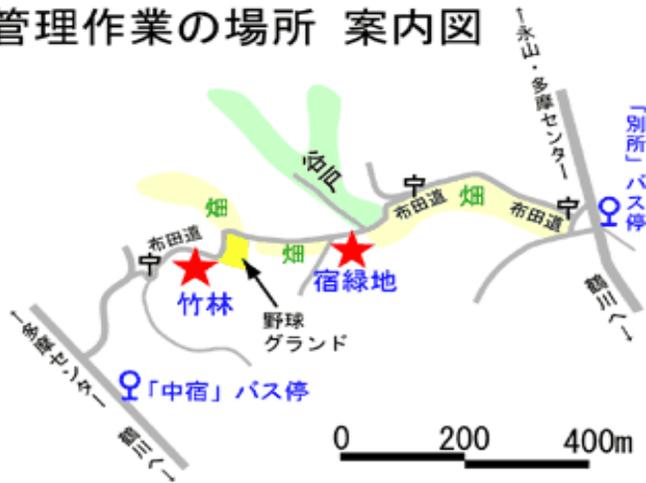
★日時変更になる可能性がありますので、必ず事務局に確かめてからお出かけください。



「緑と農の管理」 持ち物：弁当、水筒、軍手、長靴（必要なら）

9/27 (日)	ブタクサ刈り
10/10 (土)	恵泉女学園大学 稲刈り 10時
10/18 (日)	緑地草刈
11/22 (日)	緑地草刈
12/6 (日)	竹林

管理作業の場所 案内図



稲刈り



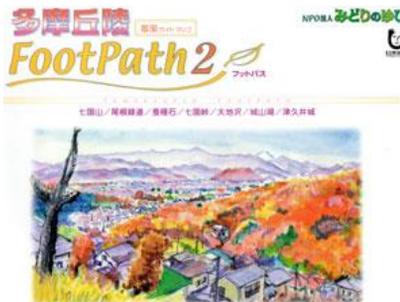
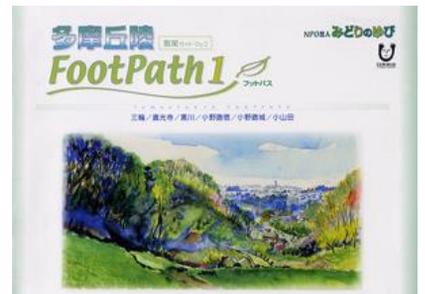
秋の緑地

フットパスガイドマップ既刊4冊

町田市地域には、フットパスにふさわしい昔ながらの里山風景、雑木林、田畑、古街道、歴史の面影などが随所に残されています。

魅力あるフットパスコースを町田市と協働で開発し、フットパスガイドマップとし、「多摩丘陵FootPath1」¥500+税、「多摩丘陵FootPath 2」¥500+税、「まちだフットパスガイドマップ」¥800+税、「まちだフットパスガイドマップ2」¥800+税 の4冊を刊行しています。

市内の書店でのご購入、または、事務局へお申し込みください。



NPO法人「みどりのゆび」

- ・事務局 : Tel 042-734-5678 Fax 042-734-8954 Email info-m@midorinoyubi-footpath.jp
- ・ホームページ : <http://www.midorinoyubi-footpath.jp/>
- ・Facebook : <https://www.facebook.com/midorinoyubi.footpath>